



いたびつ 板櫃 <校訓>  
真理の探究  
自主躍進



令和5年9月13日(水)発行  
校長 栗原博巳  
北九州市小倉北区白萩町8番1号  
HP: www.kita9.ed.jp/itabitsu-j/

<学校教育目標>  
自立・共生～自立心にあふれ、他を思いやる心をもった生徒の育成～  
<目指す生徒像>  
①「時を守り、場を清め、礼を正す」生徒(凡事徹底)  
② 自ら考え、正しく判断し、進んで学習や諸活動に取り組む生徒(自立)  
③ 思いやりの心を持ち、協力し合って集団生活の向上に努める生徒(共生)  
④ 与えられた仕事に対し、役割を果たすことのできる生徒(責任)

# 『優しい人になりなさい』柔道家古賀稔彦さん

## 『やる気』こそエネルギーの源だ!!!

2学期はみなさんもよく知っているように、いろいろな行事が次々とやってきます。とりわけ、3年生の出番が増えます。体育大会、文化発表会を中心に3年生のリーダーシップが問われます。

先生の経験から、行事で頑張れる人は、勉強も頑張れます。勉強で頑張れる人は、行事でも頑張ろうとします。勘違いしないでください。勉強ができる、できないということを行っているではありません。「やる気」のことなのです。(大人もそうですが)何かに夢中になれない人は全部が中途半端になると思うのです。なぜでしょうか。それは、ものごとすべて「やる気」の問題が大きいからです。「やる気」があれば、時間がなかろうが、疲れていようが、がんばることができると思うのです。



では、「やる気」って何でしょうか。「頑張るぞ!」と思っても難しい時がありますよね。先生も同じです。そこで、先生が思うには、「やる気がでる」という意味は、「自分の活躍する場が想像できる」「その取組の後、自分が変わることが想像できる」「次へのエネルギーになるかもしれないと想像できる」かどうかだと思うのです。自分が生き生きと楽しく活動できる場があるなど感じられれば、だれでも頑張るのです。それがなければ、いくら力をもっている人だって活躍はできないし、まずやる気になりません。

2学期に入って、体育大会の練習が始まっています。ここで、リーダーとして力を発揮できそうな人、競技で力を発揮できそうな人、係で力を発揮できそうな人、応援で力を発揮できそうな人、運動は苦手だけど、拍手で自分と仲間を励ますことができる人がそれぞれ、「やる気」になるかどうかポイントです。「クラスで優勝するぞ」「勝敗に関係なく全力を尽くすぞ」「係として責任もってがんばるぞ」「みんなで楽しむぞ」というムードを作り、一人残らず、そのムードに欠かせない人でなければなりません。

さあ、中学校生活で一番長い2学期です。まずは体育大会目指して、クラスの輪を作っていきます。そして、いつまでも思い出に残る体育大会にしましょう。

ずいぶん前の話をしますね。校長先生の田原中学校時代の教え子がプロサッカー選手として所属していた京都サンガ F.C.(当時は京都パープルサンガと言っていました)というJリーグのチームがあります。ずいぶん前のことでしたが、チームが急に生まれ変わった時がありました。元日本代表の三浦知良(カズ)がこのチームに加わったのです。デビューするなり、大活躍をしました。(もちろんみなさんは生まれていませんが)代表落ちをしてからあまり活躍できなかったカズですが、京都サンガに必要な人として期待され、あたたかく迎えられたからこそ、活躍ができたのです。ムードづくりの大切さがわかりますね。

板櫃中全員がこの『ムード』『雰囲気』を大切に頑張ってください!!!